

令和元年度 中央区立佃島小学校 自己評価報告書

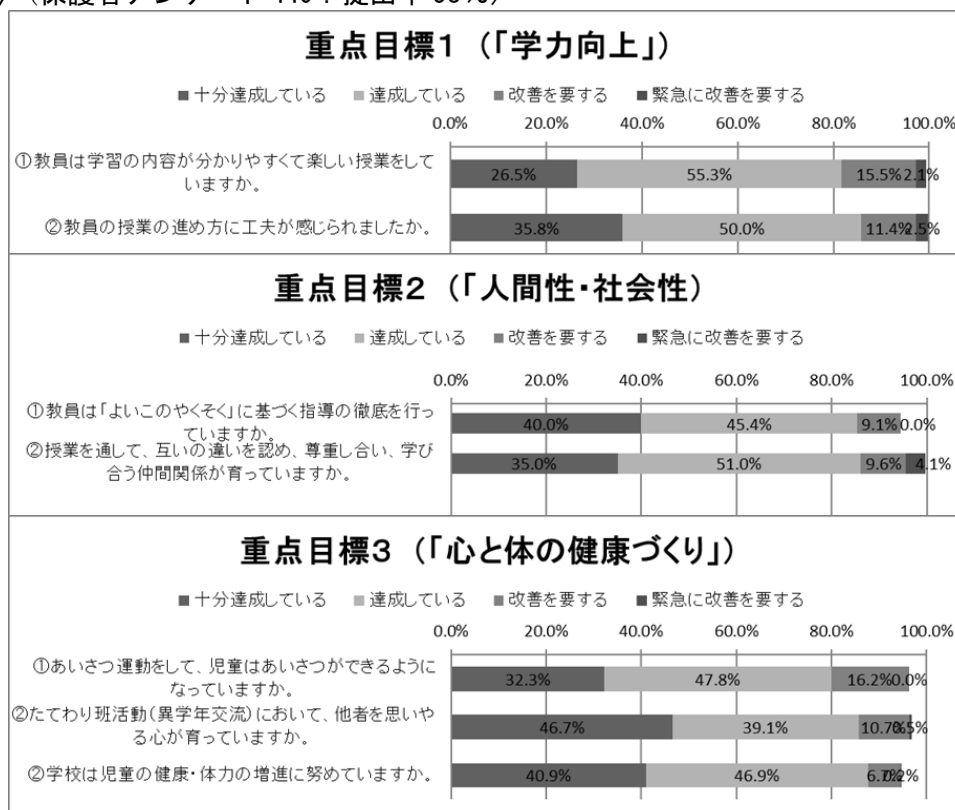
学校名 中央区立佃島小学校 所在地 中央区佃2-3-1

校長 三木 滋

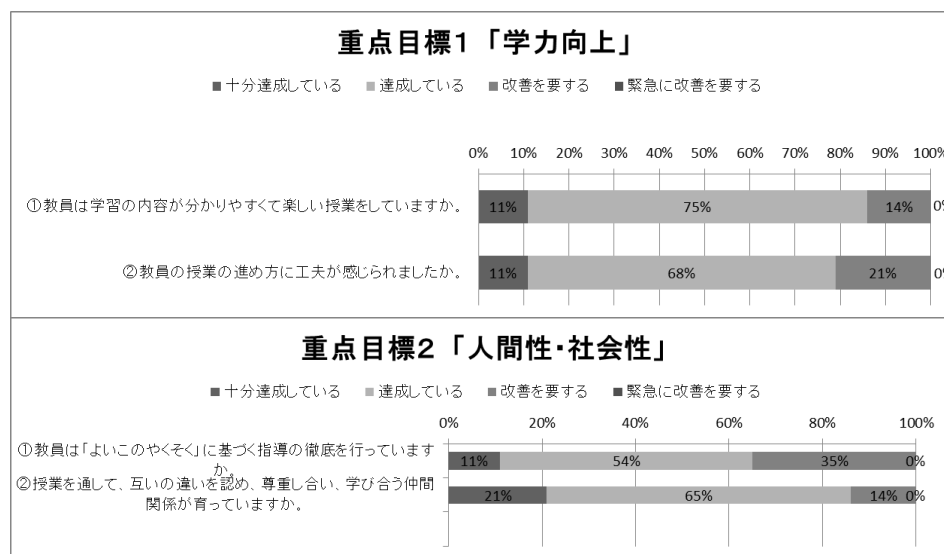
児童数 759名 学級数 23 教員数 30名 職員数 21名 (R2.3.11 現在)

1 重点目標の達成状況及び取組状況

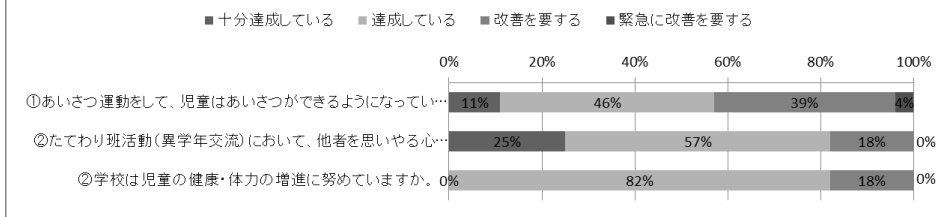
〈保護者〉(保護者アンケート 440 : 提出率 58%)



〈教員〉



重点目標3（「心と体の健康づくり」）



重点目標1「学力向上」

「教員は学習の内容が分かりやすく楽しい授業をしていますか。」について81%以上が、「教員の授業の進め方に工夫が感じられましたか。」について、85%以上が達成しているとの評価であった。日々の授業の充実を目指して授業改善に取り組んできているが、その様子を学校公開やお子様の様子等でご覧いただけたものと考えている。学ぶことが楽しいと子どもが感じられる授業となるよう今後も授業改善を行い、授業内容の充実を図っていきたい。

重点目標2「人間性・社会性」

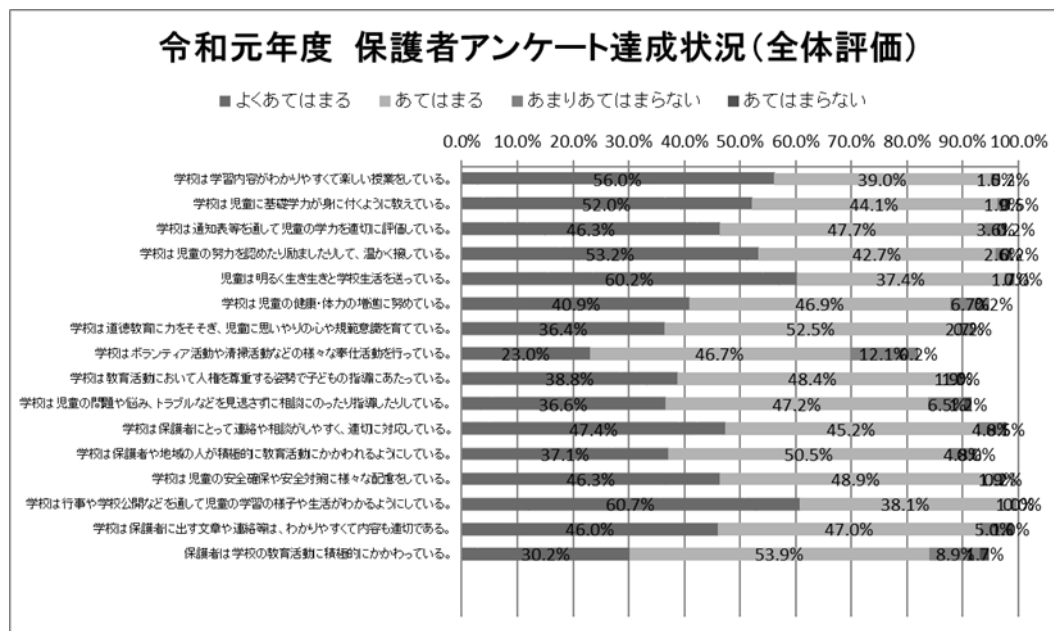
まず、「よいこのやくそく」の徹底をした。教員の共通理解のもと指導をすることで、約束を守り行動できる子どもが増えてきている。全教員が徹底した指導を行うことで、子どもの成長に直接的な影響を与えることが明らかとなった。しかし、学年が上がるにつれて、きまりを守るのが難しくなっているのも実態である。保護者の協力のもと、よりよい学校生活を送ることができるよう指導していきたい。

また、「授業を通して、互いの違いを認め、尊重し合い、学び合う仲間関係が育っていますか。」では、86%近くの評価であった。今後も一人ひとりを大切にした学級づくりを教員一丸となって進めていきたい。

重点目標3「心と体の健康づくり」

今年度も、あいさつに重点を置き、学校全体で取り組むことにした。代表委員会や学級ごと毎朝玄関に立ち、あいさつ運動を行った。そのことで、あいさつの意識が高まり、元気よくあいさつができる子どもが多く見られるようになってきた。その結果、保護者は80%という評価であるが、教員からみると、57%程度しか達成していないという評価である。毎年の課題となっている。学校での取り組みに関しても、まだまだ改善が可能であると考え。また、たてわり班活動について85%の評価をいただいた。昨年度は95%であった。今年度は、児童数の増加、大規模改修の影響で、残念ながらハッピーフェスティバルを行わなかった。そのことも影響していると考えている。異学年交流の必要性を感じているので、今後、たてわり班活動の在り方について検討が必要と考えている。

2 全体の評価 ＜保護者のみ＞



◇全体の評価について

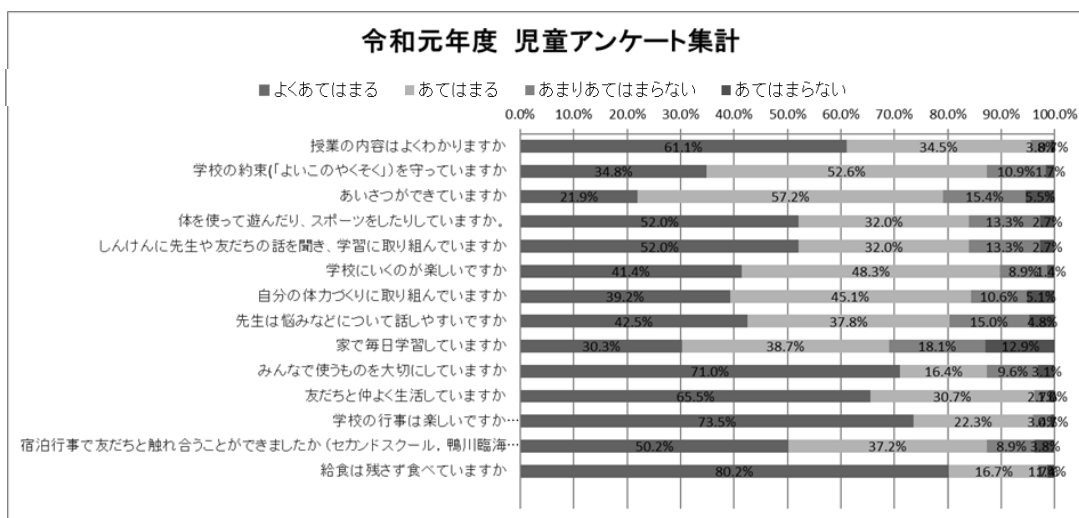
本年度も保護者アンケートでの達成状況として16項目中15項目で80%以上達成しているとの評価をいただいた。

「よくあてはまる」「あてはまる」と評価していただいた点に着目すると、「学校は行事や学校公開などを通して児童の学習の様子や生活がわかるようにしている」「児童は明るく生き生きと学校生活を送っている」「学校は児童に基礎学力が身に付くように教えている」が全項目の上位3つとなっている。学校の様子が保護者の皆様に伝わっているものと捉えている。今後とも、保護者の皆様と連携を密にし、一人一人の子どもたちが生き生きと生活を送り、基礎基本の学力をしっかりと身に付けることができるよう全力を尽くす。

道徳教育については、89%の評価であった。今年度から、道徳教育の研究をしている。来年度もさらに力を入れて指導をしていきたい。

奉仕活動については、70%程度の評価であった。評価できないという方も多く見られた。具体的な活動が見られなかったためと考えている。子どもたちが周囲の人々や地域のために何かを行うことに喜びを感じることができるような取組を考える。

3 児童アンケートの結果（4・5・6年生）



◇児童アンケートについて

14項目中12項目について「よくあてはまる」「あてはまる」という評価が80%以上であった。全体的に達成度や満足度が高かったことが分かる。

特に「授業の内容はよくわかりますか」については95%以上が「よい」と評価している。昨年度も同じ結果であった。子どもたちが意欲的に取り組み、理解することで、達成感や満足感を得て、自信をつけていることができている結果であると考えている。今後も「わかる、できる、楽しい」授業をめざしていきたいと考える。また、あいさつの項目ですが、79%が「よい」と評価している。昨年は約85%であったで、「よくあてはまる」子どもが2割程度なので、課題と捉えている。

一方、「先生は悩みについて話しやすいか」の項目は80%であった。昨年も80%であった。引き続きしっかりと児童の話を聞いて問題解決を図る事を通して、信頼関係を築いていけるようにしていきたい。また、家庭学習の項目が69%と、低いと感じている。高学年においては、自主的に学習ができるようになってほしい。宿題は家庭学習を習慣付ける意味もあるため、宿題に加え、各家庭でお子様に合わせた学習をさらに進めていくよう促す。

4 最後に

特に、「道徳教育」「自分から進んであいさつができる子」「自ら学ぶ子」については重点をおいて指導していく方針である。

重点目標2（人間性・社会性）

■ 十分達成している ■ 達成している ■ 改善を要する ■ 緊急に改善を要する

